脳外傷後の嚥下障害に対する半夏厚朴湯の使用経験

秋　達樹、松本　淳、米澤　慎悟、永瀬　加奈子、中根　千恵、豊島　義哉、浅野　好孝、篠田　淳

木沢記念病院・中部療護センター　岐阜大学大学院医学系研究科脳病態解析学（連携分野）

【はじめに】
嚥下障害の改善目的や誤嚥性肺炎の予防に対する薬物療法としてはACE阻害剤、ドーパミン作動薬以外にも漢方薬の半夏厚朴湯が有効であるといわれているが、脳卒中後遺症やパーキンソン病患者における使用報告は多いものの、脳外傷後の嚥下障害に対する報告例はほとんどない。今回、当センターでは脳外傷後に嚥下障害を後遺した症例に対して、半夏厚朴湯の併用を試み、著明な改善を認めた症例を経験したので報告する。
【対象と方法】
症例は15歳男性と36歳男性。2名ともにび慢性軸索損傷の診断にて当センターに入院中の患者である。多動性や暴力性を認めたため、ドーパミン作動薬などの使用が控えられた症例である。嚥下障害に対して嚥下リハビリテーションに加えて半夏厚朴湯の内服治療を開始し、開始前と約2ヶ月後の嚥下機能の変化を嚥下造影にておこなった。
【結果】
2症例ともに嚥下反射の時間短縮および咽頭部への残留物の減少といった改善効果を認めた。また精神症状の増悪も認めず、そのほかの有害事象も認めなかった。
【考察】
半夏厚朴湯は嚥下障害患者の咽頭反射や嚥下反射を改善し、また唾液中のsubstance-Pを増加させるといわれている。エビデンスは限られているものの、脳外傷後遺症の患者に対しても同様な効果が期待されるため、今後の診療に有用であると考えられた。